

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

目次

1. 序論
2. 留学の目的
3. 留学概要 （①活動日程 ②活動概要）
4. 学んだこと
5. 結論

1. 序論

本レポートは平成 30 年 8 月 9 日から令和 1 年 6 月 30 日までのタイ、ナコンラチャシーマ県での留学に関する報告書である。この留学で行った活動と成果、今後の課題などについて述べる。

2. 留学の目的

今回の留学を行った目的はタイ国内の訪日観光ビジネスについて学ぶためである。私は大学でアジア人観光客を対象とした観光まちづくりについて研究しており、年々増加傾向にあるタイ人観光客を対象にどのような訪日観光ビジネスが人気を集めているのか学びたいと考えた。また、実際に観光プランを企画する能力を身に付け、今後山梨県へ多くの外国人観光客を招致できるようにするため留学を行った。

3. 留学概要

3-1. 活動日程

留学期間内に行った活動の日程と内容を以下に示す。

	期間	活動内容
2018 年	8 月 9 日-12 月 10 日	NRRU で授業の履修
	12 月 17 日-30 日	研究調査
2019 年	1 月 9 日-4 月 26 日	Kantary Hotel Korat での インターンシップ
	6 月 4 日-6 月 28 日	H. I. S. タイ本社での インターンシップ

3-2. 活動内容

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

- ① ナコンラチャシーマラチャパット大学での授業の履修
NRRU で履修した授業の概要を以下に示す。

授業名	授業内容
English for Local Tourism	・タイ国内の観光地の学習 ・ナコンラチャシーマ県内観光地のプロモーションビデオの作成（動画撮影から編集までを学生が担当）
English for Communication	・TOEIC 対策
Business of Korat Local Food	・コラート伝統料理の学習 ・調理実習 ・販売実習
Aerobic Dance Training	・エアロビックダンスの学習
Japanese Listening & Speaking	・日本語教授法の研究
Japanese Business Communication	・ビジネス日本語の学習
Thai Language	・タイ語学習 ・タイ文化体験

タイ語の授業では伝統的祭りの1つである「ローイクラトン」で使用する灯籠を作ったり、伝統舞踊のレッスンを行ったりするなど、古くからのタイの伝統文化を深く理解することができた。また日本語学科の授業では、タイ人学生に日本語を教えるなどして日本語教授の経験をすることができた。

週末には NRRU が運営するボランティア活動に参加し、タイ東北部のイサーン地域を訪問した。イサーン地域は歴史的、文化的にラオスとカンボジアの影響を強く受けている地域で、独自の言語や食文化が今も色濃く残っている。ボランティア活動でイサーン地域の観光地を訪れ、タイの歴史背景や伝統文化を学ぶことができた。また地元住民の方と話し触れ合うことで、タイ人の国民性や宗教観を理解することができた。



山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

② 研究調査

2018年12月にブルネイ、インドネシア、オーストラリアの3か国を訪れ、各地域の観光産業に関する研究を行った。以下、研究調査の概要を示す。

日程	目的地	概要
12/17-23	ブルネイ	【イスラム教について】 ・スルタン・オマール・アリ・サイフディン・モク ・カンポン・アイール(水上集落)
12/23-26	デポック、インドネシア	【ハラールフードについて】 ・インドネシア大学 ・市内観光
12/26-29	パース、オーストラリア	【エコツーリズムについて】 ・ロットネスト島 ・キングスパーク

ブルネイではイスラム国家の観光について調査を行った。訪れたモスクでは入り口に外国人観光客用のヒジャブ(イスラム教の女性が全身を覆うための布)が用意され、モスク内部でイスラム教徒用の礼拝のスペースと観光客用のスペースが分けられるなど、観光客を受け入れる環境が整備されていた。今後イスラム教観光客数のさらなる増加が予想されており、イスラム教を理解する心や受入環境の整備が必要になると感じた。

今回インドネシアを訪れた中で頻繁に目にしたのがハラール(イスラム教において合法的な食べ物)の表記である。インドネシアの全人口のうち約90%はイスラム教を信仰しており、教えに従ううえで重要になるのが「ハラール(許されている)」の考えである。イスラム教ではアルコールと豚肉(豚と接触した食品)、イスラム教の教えに従わない方法で加工された肉などを全面に禁止している。山梨県立大学に1年間留学していたインドネシア人の友人に山梨での生活について聞いたところ、「山梨県内でハラール表記のある飲食店はほとんどなく、いつも自分で料理をしたり、料理の材料を確認したりしてから食べていた」と語っていた。世界的にハラールフードへの関心が高まっている今、山梨県でも多くの人にイスラム教に関する知識を広め、ハラールに対応する飲食店の拡充を図る必要があると感じた。

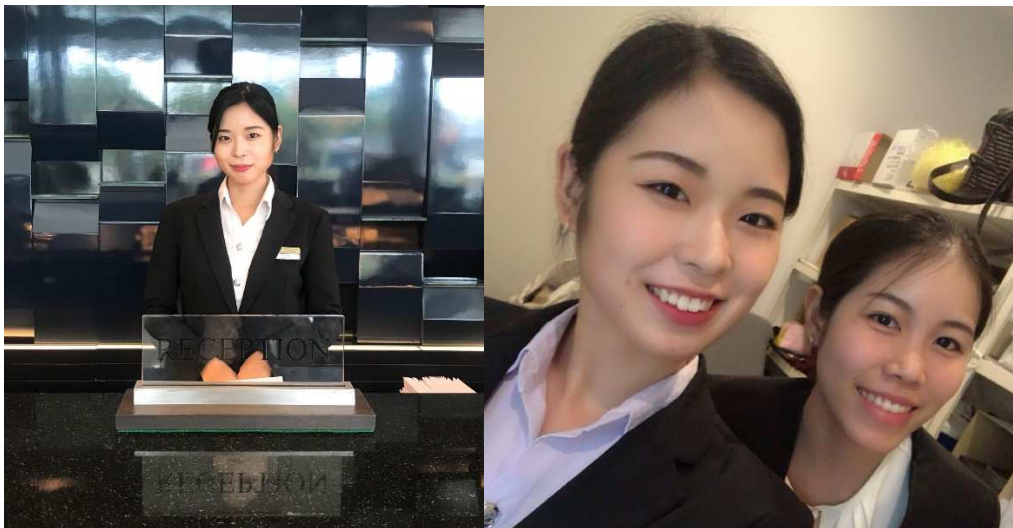
パースではエコツーリズムの調査を行った。パースはオーストラリア西海岸にある都市で、固有種の動植物が数多く存在する自然豊かな町である。今回私が訪れたロットネスト島は固有種の「クオッカ」がみられる唯一の島として有名で、多くの外国人観光客がクオッカとセルフィーを撮るために訪れるが、島では自然環境を保護するためのルールが数多く

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

設けられていた。山梨県では近年豊かな自然環境を生かしたサイクリングやトレッキングなどのスポーツが人気であり、今後のエコツーリズムの発展に伴ってパースの自然保護の姿勢や政策から学んでいくことがあると感じた。

③ Kantary Hotel Korat でのインターンシップ

私は将来就職を考えているホテル業界の仕事について学ぶため、昨年の1月から4月間コラートの「Kantary Hotel Korat」でインターンシップを行った。フロントスタッフとして働き、基本的な受付業務から日本人利用客への対応まで幅広い業務を行った。この経験を通して一連の受付業務を理解できたことに加え、ホテル利用客に対するマナーやホテル業界におけるホスピタリティを学ぶことができた。



④ H. I. S. タイ本社でのインターンシップ

昨年6月4日から28日までの1か月間 H. I. S. バンコク支社で短期インターンシップを行い、ツアー企画会議への同行や、支店研修などの活動を行った。またインターン最終日には社員に対して最終プレゼンテーションを行った。タイ人観光客が旅行に求める条件や特徴、訪日ツアーの作成工程などについて理解することができた。またツアー企画において、移り変わりの早い旅行トレンドへの対応力や、素早い判断力が重要であると感じた。



4. 学んだこと

今回の留学を通して学んだことを以下に述べる。

① タイ人の国民性

日本と比較し、タイでは仏教の信仰心がより強いと言える。タイには国内各地に仏教寺院があり、お祝いなどの度に家族や恋人と参拝する習慣がある。また日常生活の中でも、朝 8 時と夜 6 時にタイ国内全土で国歌が流れ全ての人立ち止まってお祈りをする時間などがある。このようにタイでは多くの人仏教を強く信仰し、日本の寺社や礼拝の作法などに関して理解があるように感じた。

またタイ人は仲間意識が強く、毎日友人と一緒に夕食を食べたり、休日には頻繁に実家へ帰省したりする人が多かった。その点で旅行などの際には複数人で行くことを好む傾向があると感じた。

② タイのアウトバウンド観光

H. I. S. タイ本社の研修では訪日ツアーの作成方法や近年の訪日旅行のトレンドについて学んだ。その中で特に興味深いと感じたのが、旅行の際にタイ人観光客は観光地の歴史背景などよりも景色の美しさや写真映えをより重視するという点である。旅行会社はこのようなタイ人の趣向に合わせてツアーを作成し、今後山梨県が県内観光地の情報発信などをする際にも、PRの方法を工夫していく必要があると感じた。

5. 結論

今回の留学を通して様々な人と出会い、タイの伝統文化や生活、観光ビジネスについて深く学ぶことができた。また H. I. S. でのインターンを通して自身の多くの課題が見え、今後は課題対応力やプランニング能力を伸ばしていきたいと感じた。

これらの貴重な経験を今後の学習に活かし、山梨県内の観光ビジネスの企画に取り組み、山梨県の観光産業の発展に少しでも貢献できるように努力する。